

## 梅雨前線に伴う降雨における 寒河江ダムの防災操作（洪水調節）効果について

～ ダムによる水位低減効果 約70センチ ～

最上川ダム統合管理事務所管内では、梅雨前線に伴う降雨により平成25年7月8日、寒河江ダムにおいて洪水調節を実施しました。

寒河江ダムへの最大流入量は約390m<sup>3</sup>/sで、洪水調節でダムにため込んだ水の総量（以下、「調節総量」とよびます。）は、約340万m<sup>3</sup>に達しました。（東京ドームを容器とすると約2.8杯分）

この洪水調節により、寒河江ダムの下流河川の水位を約70cm低減させる効果があったものと推測されます。

今後しばらくの間、ダムからの放流がつづきますので、河川やダムの情報に注意してください。

※防災操作（洪水調節）：川の増水を少なくするため、ダムに流れ込む水を貯めて川の水の量を減量している状態です。

【発表記者会：山形県政記者クラブ】

### 問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 最上川ダム統合管理事務所  
山形県西村山郡西川町大字砂子関158

副所長（技術） 高橋 長幸 （内線204）

調査課長 高橋 正志 （内線271）

電話 0237-75-2311（代表）

# 最上川水系 寒河江ダムの効果（平成25年7月 梅雨前線に伴う降雨）

○寒河江ダム上流域において、流域平均累加雨量は64.3mm、最大流入量は1秒間に約390立方メートルとなりました。  
 ○今回の洪水期間中において、最大約340万m<sup>3</sup>（東京ドームを容器とすると約2.8杯分）の水を貯留し、下流の洪水被害の軽減を図りました。※東京ドームの容量：約125万m<sup>3</sup>  
 ○ダム下流の西根地点（寒河江川下流基準地点）では、約70cmの水位を低減させる効果があったものと推測されます。

